

2014年度 中央大学特定課題研究費 ー研究報告書ー

所属	文学部	身分	教授
氏名	高橋 慎也		
NAME	Shinya Takahashi		

1. 研究課題

(和文) 演劇におけるユートピア観とパフォーマンス性の相互関係の研究

(英文) Analysis of Utopian Image and Peformativity in Theater

2. 研究期間

2年

3. 研究の概要（背景・目的・研究計画・内容および成果 和文 600字程度、英文 50word程度）

(和文)

20142014年度は本研究のための基礎的な上演データの収集と整理を、研究補助員を雇用して進めた。ドイツの基礎資料としたデータベースは『Wer spielte was』と『Theaterstatistik』である。その上演データの分析結果から戦後ドイツ演劇史におけるユートピア観は、旧西ドイツよりも旧東ドイツの演劇史において重要な役割を果たしたことが明らかになった。その際に『ハムレット』の上演、とりわけ1990年初演のハイナー・ミュラー演出の『ハムレット/マシーン』が社会主義的ユートピアの喪失とデストピアの予告という機能を果たしたと解釈する視点を提示した。また沖縄の民俗舞踊と民間宗教の相互関係を出張調査した。その結果、中国の舞踊、日本の舞踊の影響を受けながら、現世と来世を往還するユートピア的神話性を有する民間信仰に基礎を置く琉球舞踊の固有性を確認することができた。

20152014年度はユートピア観とパフォーマンス性の相互関連を、主に「死者との対話と鎮魂」をテーマとする戯曲および舞台上演を分析対象として研究を進めた。その結果このテーマがドイツの受難劇、日本の伝統芸能の系譜にあるという推論に達した。ヨーロッパと日本の近現代演劇では、宗教的テーマは上演の際に明示はされないが、社会批判という要素と結びつく形で暗示されていることが明らかになった。その際にパフォーマンス性の要素である「上書きによる断片的表現」という作劇法が重要視されていることも明らかになった。

(英文)

Through the analysis of utopian image and performativity in the german and japanese theater after 1945 it became clear that the turn form dramatic to postdramatic theater has been developed, and that the utopian images are often expressed in the fragmental text and performances..

3. 研究成果について（研究期間終了後2年以内・予定のものを含めて記入）

『ドイツ文学』（日本独文学会 2017年3月刊行）、『ドイツ文化』（中央大学ドイツ学会 2017年3月刊行）に寄稿予定